

平成27年
12月号

桂台地域ケアプラザ

地域交流プログラム

発行日／平成27年12月1日
編集・発行／横浜市桂台地域ケアプラザ
発行責任者／石塚 淳

お問い合わせ先

地域交流部門 897-1111

HPアドレス

<http://www.katuradai.com>

桂台 支えあい連絡会

検索

11月になると、街にはクリスマスのイルミネーションが灯り、そろそろ年末の声が近づいてきます。なにか、せかせかした気分になりますね。大掃除の段取りやお正月の計画など、考えているだけでどんどん先に進んでしまいそうです。さて、そんな中、本郷中央地区でも上郷西地区でも第3期地域福祉保健計画・地区別計画の話し合いが大詰めを迎えています。計画も大事だけれど実践が伴わなくてはというご意見もごもっともですが、やはり、先にあるのは計画です。関係者の方だけではなく、様々な人に関心を持っていただきたく、2.3面を割いて本郷中央地区の話し合いについて掲載致しました。活字ばかりで恐縮ですが、ご覧いただくと幸いです。

12月の おしらせ



◆「おもちゃ文庫」(「ぽこ」)のお誘い◆

親子がだれでも集える場所がケアプラザにあるのをご存知ですか？ 木のおもちゃやお手製の布おもちゃなど、小さなお子さんが安全に過ごせるプレイルームです。ママやパパだけでなく、おじいちゃんおばあちゃんと一緒にぜひ遊びにきてください。子育て支援者さんが優しく見守ってくれています。



利用時間：フリータイム (どなたでも)

10:00~13:00 (平日)

場 所：桂台地域ケアプラザ 1F

問 合 せ：桂台地域ケアプラザ ☎897-1111

◆パソコンサロンのお誘い◆

暮らしに活かせるインターネットを体験・活用してみませんか？ 新しいことに挑戦し、楽しく仲間づくりをしましょう。初心の方、大歓迎！ サポーターさんが懇切丁寧に、マンツーマン指導を行います。



日 時：1月7日(木) 14日(木) 21日(木)
(3回シリーズ)

いずれも 9:30~12:00

人 数：6名 (定員次第締切)

パソコンのお貸出しをいたします (3台まで)

申込み：桂台地域ケアプラザ

☎897-1111 (担当：佐川、高橋)

※1月以降も毎月第1・2・3木曜日に開催予定ですので詳細につきましてはケアプラザにお問い合わせください。

3A・スマイルの会・ Xmas会のお知らせ



誰でも参加可能です。この機会にぜひご参加下さい。

日 時：12月23日(水) 10:00~12:00

場 所：桂台ケアプラザ 多目的ホール

会 費：300円

問合せ：☎897-1111 もしくは窓口まで

歌とも倶楽部桂台

誰でも参加可能です。懐かしの歌をアコーディオン演奏に乗せてみんなで歌います。この機会にぜひご参加下さい。



日 時：12月14日(土) 14:00~15:30

場 所：桂台ケアプラザ 食堂

会 費：300円

問合せ：☎897-1111 もしくは窓口まで

11/21本郷中央地区・第3期地域福祉 保健計画策定について、オール本郷中央で 最終的な意見抽出を行いました。

去る11月21日(土)17:00~20:30桂台地域ケアプラザ多目的ホールにおきまして、参加者60名による第3期地域福祉保健計画策定に係る意見交換会を行いました。冒頭では、ファシリテーターの糸川氏より次のような趣旨説明がなされました。

第3期さかえ・つながるプラン…第3期地域福祉保健計画策定の主旨説明

1. 今回の主催は本郷中央連合町内会自治会(本中連)とした。本中連の広報委員会代表等の座席配置は各町内会自治会の中に組み入れた。
2. 第3期の策定は、区民総参加の基に進めると位置付けられるが、これは難しいので町内会自治会の役員・関係者が主体になって計画し、推進することが望まれる。
3. 第2期の地域福祉保健計画は栄区福祉保健課と栄区社会福祉協議会の協働方針の下に、地区社協の関係団体代表者と地域ケアプラザの代表者の協議等により作成されたが、各町内会自治会の関心や協力は得られにくかった。勿論、自治会訪問等を通しての意見や要望の反映はなされていたが、計画の推進力には乏しいものが見受けられた。この第2期計画は平成22年度から27年度までのもので、今年度が第2期の締めくくりに当たり、これらの活動を第3期に継続する取組みの検討を進めている。
4. 第3期は平成28年度から32年度までの5年間であり、計画の策定は現状を把握した上で継続するものと、今後の5年間に達成するべく課題や目標も含まれている。第2期の計画がどうであったかは、本郷中央地区支えあい連絡会の幹事会で振り返りシートにまとめるべく平成26年12月から毎月2回開催して検討を重ね、これらを基に平成27年2月22日に協働福祉フォーラムを行い、各町内会自治会からの参加者の意見や要望を聞いて、これらの結果を分析・評価して、第3期計画のたたき台を練り上げてきた。
5. 第3期さかえ・つながるプランは福祉保健計画から名称は変わったが、策定の基本理念は変わっていない。第2期との違いは、平成25年10月5日に栄区がセーフコミュニティの認証自治体になったことで、第3期のさかえ・つながるプラン策定は、セーフコミュニティと連動させて、セーフコミュニティの再認証につなげることが期待されている。※セーフコミュニティ…WHO(世界保健機関)協働センターからの認証で、平成28年度に事前審査、平成29年度に本審査、平成30年度に再認証が予定されている。
6. 第3期策定の考え方は、平成27年9月に栄区から提示され、その中で新たに論点1から論点7が開示してある。論点5と論点6は本中連としての現状把握が難しく、行政の施策へ協力できるとの観点から、今回の検討の対象から外してある。

平成27年11月21日

本中連・事務局長 糸川 賢二

続いて、論点1~論点4までの意見交換、食事休憩を挟み論点6についての要望、最後に論点7の意見交換を行いました。論点ごとに、主な意見等についてまとめて掲載いたします。

論点1…超高齢社会の安全、安心を支える観点から(地域における取組みの現状把握、検討すべき課題、将来のあるべき姿等について、関係者間の意見交換や要望の把握と洗い出し)

顔の見える関係づくりをキーワードに、お互いにあいさつをすることから始まって、サロンや認知症、消費者詐欺予防の研修会、見守り活動など様々な取り組みが自治会や民生委員、ボランティア活動者を中心に行われている事が報告されました。しかし、全ての方に情報が行き届いているかというところではなく、きちんとした情報が渡っていない方に対してどのようにフォローするかが課題として浮かび上がりました。具体的な取り組みとしては、あいさつ運動の拡充や地域で行われているサロンの広がり、認知症に関する理解を深める取り組みや消費者詐欺被害の予防などすでに行われている活動を広げていくことに焦点があてられました。



論点2…安心感のある子ども子育てができる観点から（地域における取組みの現状把握、検討すべき課題、将来のあるべき姿等について、関係者間の意見交換や要望の把握と洗い出し）

社会環境が著しく変わった時代において、安心感のある子育てをする環境を地域でどう支えていくか？ このテーマは大変難しく、PTA役員やサロン運営をしている方々が苦心している姿がありました。問題は様々ですが、二人目以降の子どもへの支えが弱かったり、子育てよりも仕事をせざるを得ない状況がある家庭が増えていたり、情報を上手く活用できている親とそうでない親の格差が大きかったりという問題提起がされました。子育てサークルや子育てサロンの横のつながり、情報共有がまだまだ薄い状況もあり、自治会活動を含めた子育て関係者のネットワークづくりや世代を超えた助け合いが求められている状況を共有しました。

論点3…健康志向生活ができる観点から（地域における取組みの現状把握、検討すべき課題、将来のあるべき姿等について、関係者間の意見交換や要望の把握と洗い出し）

健康志向生活では様々な意見が飛び交いました。「歩く事が一番の健康、横浜市でもよこはまウォーキングポイントや健康スタンプラリー等で推奨されているが、目標達成などちょっとした競争心のもとに健康づくりを行うと良い」「栄区制30周年に伴い、シニア向けの健康体操が考案されると良い」「元気づくりステーションで行う筋力トレーニングは、実は脳トレの効果もある」「地域のラジオ体操を継続して行っている」などです。健康志向生活は、何を行うか？ 自分で選択する事も大切です。論点3では、身近で行われている健康づくり情報を共有し、お互いに誘いあい、楽しく行う事が広がりを生んでいくものだと思います。

論点4…福祉的側面からの防災対応の観点から（地域における取組みの現状把握、検討すべき課題、将来のあるべき姿等について関係者間の意見交換や要望の把握と洗い出し）

大規模災害時の発生に備える取組みに関しては、各自治会ごとに進んでいる状況ですが、各自治会から様々な報告がありました。防災ライセンスの取得を促し、近隣の見守りを進めることにも役立っている、地域の防災リーダーの育成が必要、万が一の時を見据え、統一的な安否確認の方法を決めておくべき、スーパーなどの企業などに依頼し、いざという時の避難先（逃げ込み先）を確保しておくといい、等のご意見がありました。

論点6…障害者が安心して暮らせる地域の観点から（施設職員からの提言）

朋…桂台自治会の西サロンに招待され、定期的に交流を図っています。また、フローラ桂台自治会とは、フェスタのお餅つきなどを通じて長年にわたる交流を行っています。今後も、施設に来ていただいたり、こちらから出向くなどして積極的に交流を図っていきたくと思っています。（施設内のXmasの飾り付けも綺麗ですよ）

徑…障害者のあんしん施策として「後見的支援」を展開しています。地域の方には、その制度を理解し、一人でも多くの方にあんしんキーパーに登録していただきたいと思っています。出前講座も行うのでぜひお声かけしてください。

郷…開所してから3年が経過したが、未だにどんな施設かわからない方も多いと言う声も聞いています。郷は、医療的ケアが必要な方が通ってきたり、泊ったりする事ができる施設です。素敵な方がたくさん通ってきています。ぜひ、遊びに来てください。

論点7…福祉保健の充実に向けての地域社会のあり方や各主体の役割の観点から（論点1～論点4との相互的な意見交換）

課題が広すぎて地域の手には負えるものではない、と言う意見や、民生委員、地域包括支援センター等で行う孤立（死）予防のための見守り訪問が75歳以上の独り暮らし、高齢世帯に限られているが、現実的にはそれよりも若い人が亡くなっている例があるなど重い課題も出されました。しかし、そのような重い課題があるからこそ、行政、ケアプラザ、NPO、企業などを含めたつながりが必要だという論点7のテーマにも近づくような気がいたします。一つひとつの問題を様々な機関が共有する事で解決の糸口が見つかるのではないかという事が論点7の芯ではないでしょうか。本郷中央地区連合町内会を基盤にして様々な機関が結びあう事ができるネットワークの形成が次期計画の視点になると考えます。

以上、駆け足でまとめてみましたが、この他にもたくさんのご意見を頂戴しました。実際の計画作成は、今回の話し合いを基に本郷中央地区支えあい連絡会幹事会において、形にしていきます。今後も随時、お知らせいたしますので、ご関心をお寄せいただけるようお願いします。

認知症研修を実施 ～ できることから始めよう ～

超高齢化社会を迎え、認知症の理解を深める取組みが地域のなかで活発に行われようとしています。そのひとつに、上郷西地区にある上郷中学校では「認知症サポーター養成講座」の一環として1年生全員を対象にした啓発授業が実施されました。

「だれもが安心して暮らせる街づくり」実現のために、ひとりひとりが認知症について正しい知識を持ち、助け合うことができれば、認知症の人も家族も心穏やかに過ごすことができるはずです。そうした支えあいの輪を広げるために、“自分たちにできることは何か”を考えることが大切です。

認知症は歳をとれば誰にでも起こりうる身近な病気です。厚生労働省の2015年1月の発表によれば、軽度認知障害と推計される400万人を合わせると、65歳以上の高齢者の約4人に1人が認知症またはその予備軍ということになるそうです。他人事

ではなく、自分たちの問題だと考え、見守りや関わり方について学ぶことが必要となってきました。

中学校では、認知症理解の講演会に向けて、まずクラスごとの事前学習に取り組みました。先生方が、認知症はどういう病気なのかをわかりやすく提示し、日常生活で見受けられる状況を教材用のDVDを視聴しながら、間違っただけと望ましい接し方について考えていきました。

生徒の感想からは「認知症は言葉だけ知っていたがよくわからず、自分には関係ないと思っていた気持ちが変わった」「自分の近くに認知症の人がいたら、しっかり向き合い、動きまわったり、怒ったりしていることを優しく理解し、助けたいと思う」などが寄せられました。

聖ヶ丘教育福祉専門学校の木田先生の講演は、「どうする？どうなる？認知症」と題し、まず“だまし絵”によって固定観念や価値観を変えてみることをご指導いただきました。現実に見えている世界は、単に見ようとする世界にすぎないこと、どうして？という素朴な疑問を持って、へえそうなんだ！と考えようとする目が大切であることを学びました。

今後、子どもたちが自分たちの家族をはじめ身近な地域、それぞれの活動の場において思いだし、さりげなく援助できる「人間杖」となってほしいと願います。



<だまし絵>
何に見えますか？

※認知症サポーターとは・・・

認知症サポーター養成講座を受けた人のことを言います。講座を通じて認知症の正しい知識やつきあい方を理解し、自分のできる範囲で認知症の人を応援するのがサポーターです。

「目印」としてオレンジ色のブレスレット「オレンジリング」が渡されます。



＝オレンジリング＝

認知症サポーター養成講座等のお問い合わせは、ケアプラザまでご連絡ください。

☎897-1111 担当：佐川

